

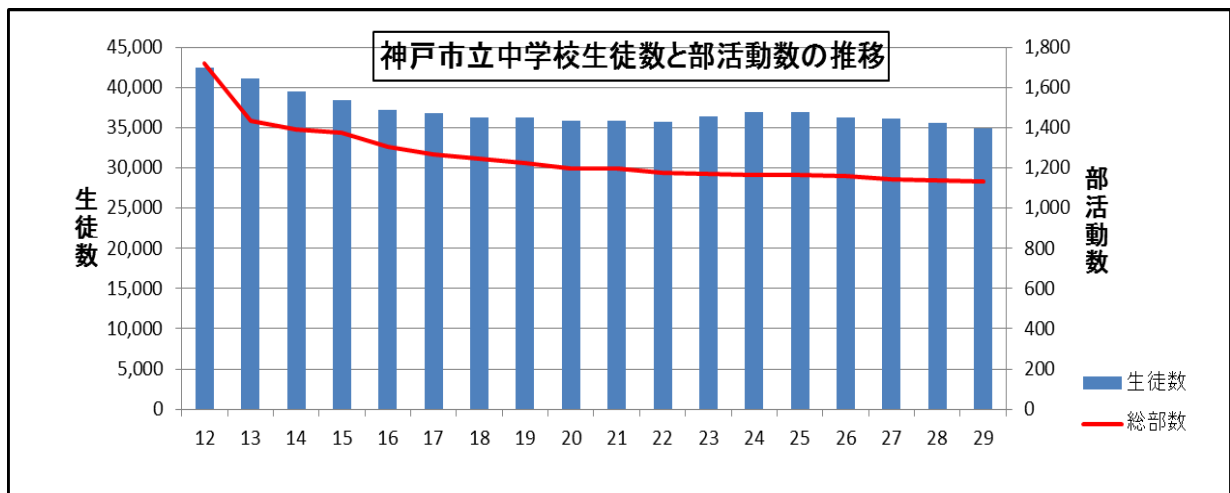
拠点校部活動について

神戸市教育委員会
スポーツ体育課 浅野 あや

1. 神戸市立中学校部活動の現状

本市の中学校における部活動の入部率は、毎年平均して 90%前後を保っており、部活動への期待感が高い。

しかし、近年の生徒数の減少に伴い学校が小規模化するなかで、既存の部活動を維持するのが困難になり、休廃部を余儀なくされる学校がみられるようになった。一方で、小学生は多様なスポーツに触れる地域スポーツクラブ等に参加する機会が増え、学童期より親しんできた運動を中学校でも継続したいという強い希望をもって進学することが多くなっている。もはや、各中学校単位では生徒のニーズに対応できなくなってきており、また、種目によっては部数が減り対外試合ができない現状もある。



2. 設置目的

学童期より親しんできた運動を、中学校でも継続していきたいなどの生徒の多様なニーズに応えるため、学校間・保護者・地域の理解と協力を得ながら、「拠点校」方式の部活動を実施し、神戸市全体で組織的に生徒の救済を図るとともに、運動部活動の活性化を目的として設置する。拠点校の設置にあたっては、教育委員会と中学校体育連盟が協議して指定する。

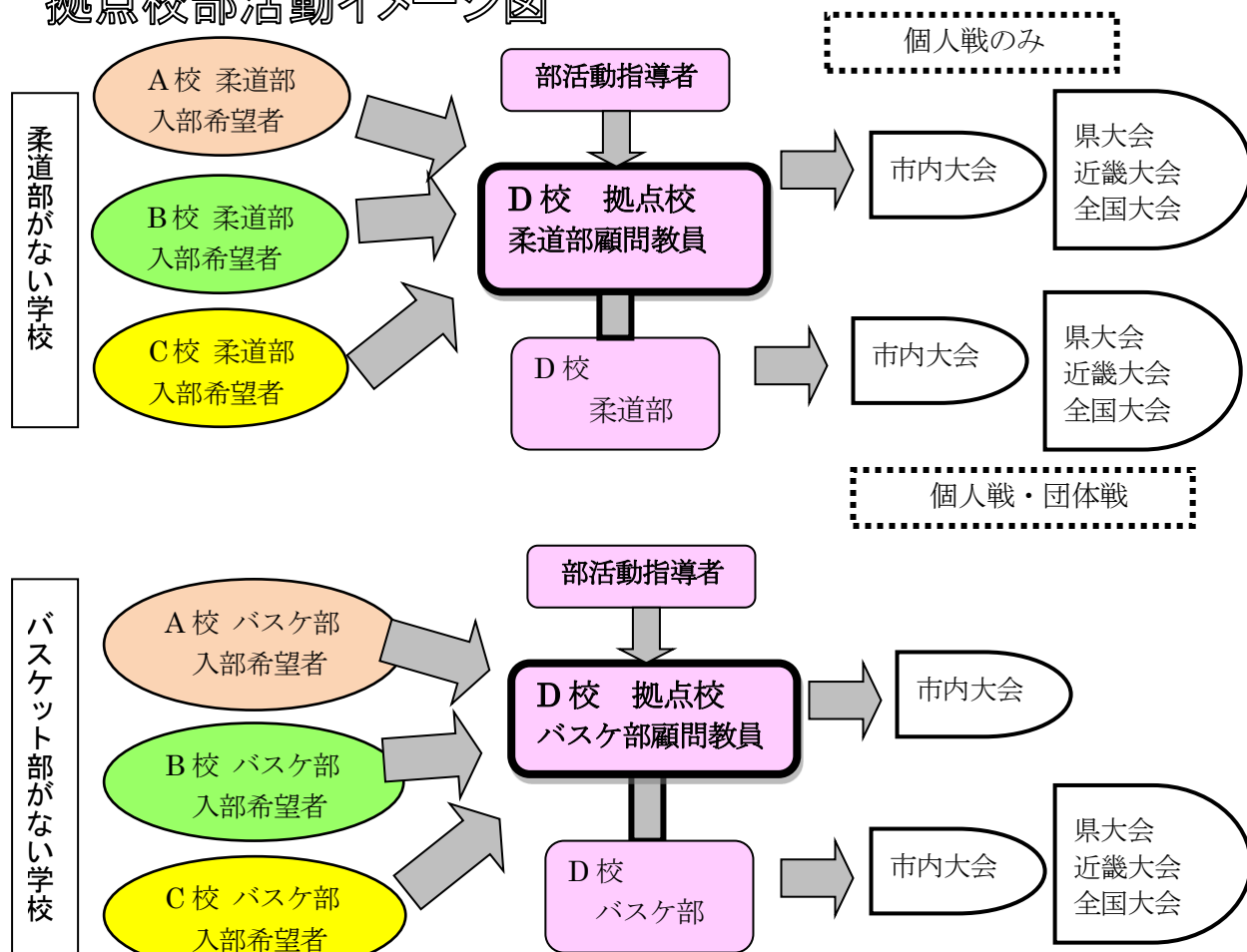
3. 概要

進学する中学校に希望する部活動がない場合に、希望があれば「拠点校部活動要項」に沿って、市内数箇所に配置された指定する学校（拠点校）の顧問教員に従い、練習に参加することができる。個人種目においては、在籍校として公式戦に出場ができ、団体種目においては拠点校として市内大会のみに出場することができる。

平成 14 年度から実施しており、平成 29 年度は 10 種目 336 人の生徒が活用している。

また、各拠点校に対して教育委員会から整備費を支給するとともに、指導する教員の負担軽減のため、週 3 回程度活動ができる部活動指導者を配置している。

拠点校部活動イメージ図



4. 拠点校部活動における効果

- ・拠点校の参加生徒と他校の参加生徒とが切磋琢磨しながら活動するため、双方の技能の向上がめざましい
- ・全市的な視野で生徒を育成でき、生徒の多様なニーズにある程度応えることができる
- ・競技人口の少ない種目が維持でき、高等学校での部活動の継続につながる
- ・市立高等学校等の指導者の活用により、指導の質の確保と施設の活用が図られる
- ・拠点校以外の参加生徒が在籍する学校の負担軽減となる

5. 拠点校部活動における課題

- ・複数の学校から生徒が参加するため、拠点校の負担増や活動場所が不足することがある
- ・指導者の異動等によって、前年度と同じ拠点校で実施できないことがある
- ・拠点校の種目の拡充については、地域性にあった拠点校の設置を考慮する必要がある（需要と供給のバランス）

(参 考)

◆ 拠点校部活動推移

年	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
拠 点 校 数	18	19	18	19	19	17	27	24	26	25	23	24	25	31	33	33
部 数	32	37	45	41	44	40	44	47	49	50	49	51	53	52	54	58
参 加 生 徒 数	16	40	61	86	89	113	114	132	160	210	205	221	267	268	314	336
種 目 数	6	7	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	10
種 目	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球
	柔道	柔道	柔道	柔道	柔道	柔道	柔道	柔道	柔道	柔道	柔道	柔道	柔道	柔道	柔道	柔道
	剣道	剣道	剣道	剣道	剣道	剣道	剣道	剣道	剣道	剣道	剣道	剣道	剣道	剣道	剣道	剣道
	体操	体操	体操	体操	体操	体操	体操	体操	体操	体操	体操	体操	体操	体操	体操	体操
	相撲	相撲	相撲	相撲	相撲	相撲	相撲	相撲	相撲	相撲	相撲	相撲	相撲	相撲	相撲	相撲
	バド	バド	バド	バド	バド	バド	バド	バド	バド	バド	バド	バド	バド	バド	バド	バド
		陸上	陸上	陸上	陸上	陸上	陸上	陸上	陸上	陸上	陸上	陸上	陸上	陸上	陸上	陸上
			水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳
							バスケ	バスケ	バスケ	バスケ	バスケ	バスケ	バスケ	バスケ	バスケ	バスケ

◆ 29年度 拠点校部活動種目別生徒数

H. 29. 9	3 年		2 年		1 年		全学年		
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	合計
1 卓球	2	0	1	4	6	5	9	9	18
2 柔道	8	2	5	2	6	4	19	8	27
3 剣道	10	3	10	2	10	4	30	9	39
4 体操	1	3	6	4	0	3	7	10	17
5 相撲	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 バドミントン	5	4	1	6	0	8	6	18	24
7 陸上競技	5	1	5	1	9	1	19	3	22
8 水泳	11	4	20	5	13	18	44	27	71
9 バスケットボール	15	5	19	7	22	13	56	25	81
10 テニス	1	3	8	8	14	3	23	14	37
合計	58	25	75	39	80	59	213	123	336
	83		114		139		336		336

◆ 29年度 部活動指導者(技術指導のみ)種目別人数(平成29年5月1日現在)

【運動部】

種 目	人数	種 目	人数
① 卓球	26	⑨ 陸上競技	3
② ソフトテニス	20	⑩ ソフトボール	0
③ バレーボール	17	⑪ バドミントン	1
④ バスケットボール	18	⑫ ハンドボール	1
⑤ 野球	7	⑬ 相撲	1
⑥ サッカー	6	⑭ 器械体操	1
⑦ 柔道	4	⑮ 硬式テニス	0
⑧ 剣道	6	⑯ 水泳	1
合計		112 名	

【文化部】

種 目	人数	種 目	人数
① 吹奏楽	29	⑨ 一絃琴	1
② 美術	6	⑩ 創造芸術	1
③ 家庭科	5	⑪ 情報科学	0
④ 茶華道	4		
⑤ コーラス	2		
⑥ 放送	4		
⑦ 演劇	0		
⑧ 手話	1		
合計		53 名	

